

第55表 高等学校校舎等の状況

(昭和39 単位坪)

区 分	木 造	鉄 筋	鉄 骨	そ の 他	計
校 舎	88,572 (72.8%)	25,995 (21.4%)	6,405 (5.3%)	650 (0.5%)	121,622 (100%)
屋 内 運 動 場	9,746	7,176	1,948	67	18,937
寄 宿 舎	1,332	-	-	-	1,332
計	99,650 (70.2%)	33,171 (23.4%)	8,353 (5.9%)	717 (0.5%)	141,891 (100%)

木造建物が、70.2%を占め、鉄筋、鉄骨は、29.3%にすぎない。

校舎の構造近代化は、年々進められてきているが、構造別保有坪数を全国と比較してみると、第56表のとおりとなっている。

第56表 構造別保有坪数構成比の推移

(%)

		本 県				全 国			
		37年度	38年度	39年度	37~39 格 差	37年度	38年度	39年度	37~39 格 差
校 舎	木 造	89.8	82.6	72.5	-17.3	74.3	66.8	59.3	-15.0
	鉄筋コンクリート造	8.0	13.0	21.7	+13.7	22.0	28.5	34.8	+12.8
	鉄骨	1.5	9.7	5.3	+ 3.8	2.0	3.0	4.0	+ 2.0
	その他	0.7	0.7	0.5	- 0.2	1.7	1.7	1.9	+ 0.2
屋内運動場	木 造	63.4	59.8	51.3	-12.1	53.9	48.1	43.7	- 9.6
	鉄筋コンクリート造	30.0	30.8	38.0	+ 8.0	18.4	20.2	22.0	+ 3.6
	鉄骨	6.1	8.9	10.3	+ 4.2	26.9	30.5	33.1	+ 6.2
	その他	0.5	0.5	0.4	- 0.1	1.4	1.2	1.2	- 0.2
寄 宿 舎	木 造	100.0	100.0	100.0	0	98.2	96.9	96.1	- 2.1
	鉄筋コンクリート造	-	-	-	-	0.4	0.9	1.1	+ 0.7
	鉄骨	-	-	-	-	-	-	0.2	+ 0.2
	その他	-	-	-	-	1.4	2.2	2.6	+ 1.2

これによると、全国の鉄筋、鉄骨校舎比率38.8%に対し、本県の比率は、27.0%で全国平均より、かなりおけている。

また、建物基準に対する充足率も全国水準を下回っており、危険建物が保有坪数の16.1%に達している。したがって計画的な改築計画を樹立し、校舎等の充足率をひきあげるとともに構造の近代化を図る必要がある。

〔施策の目標〕

㊦ 本県における高等学校の校舎保有坪数の16.1%を占める危険建物については、昭和45年度まで19,634坪(64,792㎡)の改築を行ない100%解消する。ただし今後危険建物に転落する坪数に対しては、昭和43年度に予定されている建物耐力度調査の結果にもとずき、昭和50年度までの改築計画を検討し、目標達成に努力する。

改築にあたっては、建物構造の改善を期し、原則として鉄筋コンクリート造とする。